

平成30年度国際理解教育セミナー（香川）
～共に生きる力を育み、よりよい未来を築くための
参加型プログラムのファシリテーションを学ぼう～

- 日時：2019年2月17日（日）9：30～16：30
- 場所：アイパル香川（香川国際交流会館）3階 第4、5、6会議室
- 参加者：36名
- 実施内容（詳細）：

ワークショップ 第一部 参加型プログラム作り

●講師：伴 和子氏（NIED・国際理解教育センター研究員）

まず本日のねらいを確認した後、SDGs（持続可能な開発目標）をテーマとした参加型のプログラムを体験しました。SDGs への理解が深まるだけでなく、講師のファシリテートにより、グループ内の初めて顔を合わせる者同士特有の堅い雰囲気が徐々に和らいでいくのがわかりました。

続いて、様々な参加型の手法とプログラム作りのコツを講師から紹介いただき、自分たちで参加型プログラムを作ってファシリテートする準備を進めました。



<参加型プログラムとは>

<ワークショップでSDGsについて学ぶ>

ワークショップ 第二部 実践！ファシリテーション

午前部の後半に進めてきた準備を基に、各グループが参加型の手法を用いて作成したプログラムを実際にファシリテートしました。

プログラムは「人権」、「環境」、「豊かさ、幸せ」、「多文化共生」、「平和」をテーマに各グループ内で作られており、ファシリテートはグループでの実践ではなく個人個人が他参加者に向けて行いました。

今年度は既存のプログラムではなく、自分たちで作ったプログラムをファシリテートするという難しい内容でしたが、ファシリテートの回を重ねるごとに、実践者のレベルがメキメキと上がっている様子が伝わってきました。

ファシリテート担当以外のグループは、参加者としてアクティビティを体験するとともに、ファシリテートしたグループの良いところや改善点を記入していきました。



<ファシリテーション実践に向けてグループ内で準備>

2018 年度 JICA 四国教師海外研修パラグアイ 研修報告&実践授業紹介

●発表者：大石 公美 教諭（高知県立高知南中学校）

教師海外研修に参加する動機から、海外研修の様子、授業実践の様子まで簡潔に報告頂きました。実は四国からの「移住者」も多く住まれているパラグアイ。大石先生が担当されている学年の英語の授業でも「移住」に関する内容が出てくるそうです。

パラグアイでの海外研修の経験を、担当されている英語科の内容と重ね合わせて綿密に計画して授業が行われたことが伝わってきました。

また、パラグアイのカテウラ地区にある「カテウラ音楽団」の 1 人少女の生き方に焦点を当て、生徒の将来について考えるキャリア教育も実践されました。音楽と出会って生活が激変した少女の話を通して、「自分にとって大切にしたいものは何か」を考えることで、中学校での生活以降どのように生きていきたいか、今をどのように過ごすのか、生徒が真剣に考えるきっかけを提供されていました。

最後に、職員室では不評であった現地のお菓子を積極的に試食する異文化への適応力の高い生徒の映像に、会場は温かい笑いに包まれました。



<大石教諭登場>

アンケート抜粋

- ・ファシリテーターについて良く知らなかったため、難しそうだとかまえていたが、意見交換がメインになっていたり、主体的に学びやすい内容であったりして、期待を大きく上回って大満足だった。
- ・参加者が国際理解教育に関心が高い方ばかりだったので、話し合いがしやすかった。
- ・知らないことを多く知ることができ、実際にプログラム作成の手法を使って実践しようと思う。
- ・ワークショップに参加するだけでなく、作るという視点が学べたのが良かったです。
- ・一番はやはりいろいろな方とお話できたことが宝でした。今日 1 日で本当によく考えたし、コミュニケーション力も上がったと思います。
- ・現場の先生が海外へ行き、現地で見聞きした事を生徒に伝えるというのは、大変有意義なことと思います。
- ・海外派遣が教育にどのような global view を広げていくかを知ることができ素晴らしいと思いました。